

題材【CASE 1…怪獣現る】

首脳会談のために、海外に赴いていた大統領のもとに、
随行していた秘書官が、青い顔をして近づいてきた。

「大統領、たいへんです。

ホワイトハウスで怪獣が暴れているそうです。

怪我人も、たくさんでている様子です」

「何ということだ。早く手を打ってくれ！」

「大統領、お言葉ですが、この事態を収束できるのは、

大統領ご自身しかありません。

すぐに、大統領のお言葉を伝えてください」

大統領は、大きく深呼吸をして、

落ち着いた声で話しはじめた。

【応募作品】

「話を聞いてくれ。私は、君の味方だ。

君が暴れる気持ちもわかる。

見た目だけで不当な差別を受けたのだろうか？

まずは、暴れるのを止めて、話し合おうじゃないか」

怪獣は暴れるのを止め、大統領との話し合いに応じた。

そして、数時間後、怪獣はホワイトハウスから去って行った。

安堵の表情を浮かべる大統領に、秘書官は言った。

「この事態を収束できるのは、

大統領だけしかいないと思ってました！

怪獣で初の大統領となった、あなたにしかできないと」